

ミカン生育情報

千葉県
平成 28 年 7 月号

平成 28 年 6 月の気象

平成 28 年 6 月の半旬別の気象を表 1 に示した。平均気温は、第 1 及び第 6 半旬を除く 4 半旬で平年を上回った。月平均気温は 21.0℃で、平年より 0.2℃、前年より 0.6℃高かった。

降水量は第 3 と第 5 半旬で平年を上回った。月合計は 273mm で、平年の 111%、前年の 119%であった。

日照時間は第 2 及び第 5 半旬を除く 4 半旬で平年と同じか上回り、月合計は 137 時間で、平年の 103%、前年の 102%であった。

梅雨入りは 6 月 5 日ごろとされ、これは平年より 3 日早く、前年より 2 日遅い。

表 1 平成 28 年 6 月の気象 (暖地園芸研究所)

| 半旬 | 平均気温(℃) | | | 降水量(mm) | | | 日照時間(hr) | | |
|------|---------|------|------|---------|-----|-----|----------|-----|-----|
| | 本年 | 平年 | 前年 | 本年 | 平年 | 前年 | 本年 | 平年 | 前年 |
| 1 | 19.2 | 19.7 | 20.2 | 2 | 27 | 87 | 36 | 29 | 32 |
| 2 | 20.3 | 20.0 | 18.9 | 16 | 40 | 95 | 21 | 26 | 19 |
| 3 | 20.9 | 20.3 | 20.8 | 49 | 44 | 24 | 26 | 22 | 12 |
| 4 | 22.6 | 21.1 | 19.9 | 11 | 47 | 12 | 23 | 20 | 20 |
| 5 | 22.1 | 21.4 | 21.5 | 161 | 49 | 2 | 12 | 18 | 34 |
| 6 | 21.0 | 22.3 | 22.4 | 36 | 40 | 11 | 19 | 19 | 17 |
| 平均/計 | 21.0 | 20.8 | 20.4 | 273 | 246 | 229 | 137 | 133 | 134 |

果実及び樹の生育

暖地園芸研究所における本年の着果量は早生温州、普通温州とも前年より少ない。前年は表年だったため、本年は着果量が少ない傾向である。気温が高く推移しているため、生育は前進傾向である。果実肥大は順調で、生理落果量も平年並みである。前年の着果負担や寒害の影響から、樹勢がやや悪い樹もみられる。現在、そうか病の発生は少ない。中晩柑における、かいよう病の発生は前年よりも少ない。果実を加害する果樹カメムシ類の飛来は 6 月下旬から増加傾向にある。

7～8月の栽培管理

・摘果 園地や樹によるバラツキがあり、それぞれの樹にあった摘果が必要である。摘果は粗摘果、仕上げ摘果の少なくとも 2 回行う。

着果量が少ない樹では、早生温州、普通温州ともに粗摘果は行わず、他の樹よりも遅めに仕上げ摘果を行うか、収穫 1 ヶ月ほど前に樹上選果をする。

着果量が中程度の樹で間引き摘果する場合は、早生温州、普通温州ともに内なり、

裾なり、ふところなりの果実を摘果し、病害果、虫害果、キズ果等の外観不良果を優先的に、全体を軽く間引き摘果する。普通温州は早生温州よりも軽めの摘果とする。

着果量が多い樹では、早生温州では、内なり、裾なり、ふところなりの果実を全摘果し、樹冠表面の外観不良果、大玉果、小玉果を間引き摘果する。普通温州では果実が肥大しやすいため枝別摘果とし、着果させる枝は軽く摘果する。

摘果の程度は、最終的な着果量の目安が1果当たり葉数で早生温州は25～30葉、普通温州は20～25葉で、この時期の粗摘果ではこの50%程度に摘果する。仕上げ摘果では、大玉果、小玉果、キズ果などを取り除き最終的な葉果比を目指す。

7月中には粗摘果を終了する。粗摘果終了後、仕上げ摘果に移る。9月以降に仕上げ摘果を行うことで、樹体への負担は大きくなるが、大玉化が避けられる。

・**マルチ資材の被覆** 高品質果実の生産にマルチ栽培は有効である。被覆の時期は、早生温州は7月下旬、普通温州は8月上旬を目安に開始する。土壌の乾きやすさや灌水設備の有無によって、被覆開始時期や地表面に対する被覆割合を調節する。マルチ栽培の適地は、水はけと日当たりが良く、着果量が中程度以上の園地である。

- ・**病害虫の防除** ※防除に際しては、千葉県農作物病害虫雑草防除指針を参考に行う。
 - ・かいよう病多発園では、薬害に注意しつつ、銅水和剤（クレフノン加用）を散布し防除する。また、夏梢に発生するミカンハモグリガの防除も行う。
 - ・黒点病は幼果期から成熟期にかけて感染、発病する。発生源は樹上・園内及び周辺の枯枝なので、丁寧に枯枝を除去する。薬剤の予防効果は降雨によって低下するため、散布からの累積降水量250mm前後を目安に次の防除を行う。
 - ・ミカンサビダニは、この時期から9月まで果実を加害する。被害が拡大する恐れがあるため、果実1～2個の被害を見たら直ちに防除する。特に、樹冠の内部・上部など薬剤のかかりにくい部分に発生が多いため、摘果時に注意深く見る。
 - ・ミカンハダニの重要な防除時期は梅雨明け期であるが、気象条件によって早晚があるので注意する。寄生葉率が30%以上になった時点で速やかに防除を行う。
 - ・果樹カメムシ類は、日暮れ頃園地を見まわり、飛来量を観察する。飛来量が多い場合は防除をする。防除は、動きの緩慢な朝方か、飛来量が多い夕方に行う。
 - ・ゴマダラカミキリの成虫が発生する時期でもあるため、見つけ次第捕殺する。
 - ・ツノロウムシ幼虫の発生が多い園では、7月中～下旬に薬剤防除を行う。
- ※なお、登録内容が中晩柑・レモンと温州ミカンで異なる薬剤があるため注意する。また、近接散布に注意が必要な薬剤もあるため注意する。

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合がある。

《 生育情報の問合せ先 》千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話 0470-22-2961※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>